

新専門医制度 内科領域プログラム



南医療生活協同組合

総合病院
南生協病院内科専門研修
プログラム
(ダイジェスト版)



南医療生活協同組合

総合病院 南生協病院

〒459-8540 名古屋市緑区南大高二丁目 204
(052) 625-0373 / FAX (052) 625-0534

みんながってみんないい ひとりひとりのいのち輝くまちづくり

南医療生協の基本理念は「みんながってみんないい、ひとりひとりのいのち輝くまちづくり」。この言葉は新しい地域づくりのモデルケースになりつつあります。これまで、医療は技術を用いて病気を治すのが最大の役割でした。しかし、今では、医療は生活に密着しており、その中で医療は生活を豊かにする手段の一つです。地域包括ケアという言葉が聞こえて久しいですが、これからの地域包括ケアは、行政に任せたものでなく、それぞれの立場の人々が主役となって実現していく時代です。こうした南医療生協の取り組みは、2015年4月放映のテレビ番組「ガイアの夜明け」でも取り上げられました。

市民の協同でつくる 健康なまちづくり支援病院

総合病院南生協病院は、2010年に現在の南大高駅前に移転しました。

この病院建設においては「市民の協同でつくる 健康なまちづくり支援病院」をきっかけ、4年半にわたり丁寧に地域住民の意見を集めました。そうした病院づくりの過程が「あいちまちなみ賞」「福祉建築賞」他、「地域住民の声を集めた病院」として、多方面から高く評価されました。

移転後は名古屋市緑区を中心とした名古屋市南部地域の二次救急医療を担い、救急搬送、外来患者数が増加しています。また同じ法人内に回復期リハビリ病院、在宅診療所、4つの内科系診療所、歯科診療所、訪問看護ステーション、老人保健施設、高齢者住宅など、医療・介護の多機能・複数の施設を有しています。また地域での病病連携、病診連携および施設との連携や地域住民との交流にも力をいれています。地域の高齢化を受けて、「病院で治す」から「地域で治し支える」医療・介護の地域住民を巻き込んだ実践は、2014年度には厚生労働省の「地域包括ケア実践100のモデル」にも選ばれました。このような背景があり、当院では入院中のみだけでなく、地域の生活まで幅広い視野を養う研修が可能です。



総合病院南生協病院後期研修プログラムで、地域から信頼される「わたしのまちの主治医」としてともに歩んでいきましょう。

総合病院南生協病院
院長 長江浩幸



南生協病院 内科専門研修プログラム概要

地域を支える内科専門医の育成

本プログラムは、総合病院南生協病院を基幹施設とし、連携施設である藤田保健衛生大学での大学研修、特別連携施設であるかなめ病院での総合内科研修を合わせた3年間で、地域に根ざした幅広い内科医療領域の研修を行います。豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

この内科専門研修を経て、今日の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行える内科医師を育成し、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として地域を支える内科専門医の育成を行います。

プログラムの特徴

■基幹病院と連携施設を通してすすめる幅広い研修

連携施設である藤田保健衛生大学病院での大学病院研修、特別連携施設である南医療生協かなめ病院での総合内科を中心とした研修とあわせて地域に根ざした幅広い内科領域の研修を可能とします

本プログラム専門研修施設群での3年(モデル)

(基幹施設 2年間＋連携・特別連携施設 1年間)

病歴提出

筆記試験

医師国家試験合格	卒後1～2年目	卒後3年目	卒後4年目	卒後5年目	卒後6年目以降
	初期臨床研修 2年	内科専門研修 【基幹施設】	内科専門研修 【連携施設】 【特別連携施設】	内科専門研修 【基幹施設】	消化器内科
					循環器内科
					呼吸器内科
					腎臓内科
					神経内科
					血液内科
					リウマチ内科
					糖尿病・内分泌内科
					救急科

・高次機能・専門病院となる藤田保健衛生大学病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけ、総合病院南生協病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

特別連携施設である南医療生協かなめ病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します

■3年間のスケジュール(例)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
卒後 3年目	循環器内科				呼吸器内科				消化器内科			
卒後 4年目	連携施設【藤田保健衛生大学病院】						特別連携施設 【かなめ病院】		院外 選択	院外 選択	院外 選択	
卒後 5年目	腎臓内科			糖尿病・内分泌			院内 選択	院内 選択	院内 選択	院内 選択	院内 選択	院内 選択

※3年間通じての救急研修を含みます。(日当直、救急当番等)

■週間スケジュール(例)

	月	火	水	木	金	土
	ERカンファレンス			学習会		
午前	病棟診療	外来診療	病棟診療	外来診療	救急当番	(病棟診療)
午後	病棟診療 病棟カンファ レンス 救急カンファ レンス(1回/月)	各科検査 ・心カテ ・CF ・BF	救急当番	病棟診療 カンファレンス	病棟診療	
夕～ (1回/月)		CPC 総合診療カ ンファレンス	BLS/ACLS	研修振り返 り		
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など						

■主担当医師として関わる全人的医療の実践

- 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院・在宅〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします



■幅広い症例と医療連携の中での経験の蓄積

基幹施設である総合病院南生協病院は、愛知県名古屋医療圏の急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

総合病院南生協病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修2年目に1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる幅広い役割を実践します。



■3年間のカリキュラムで経験できる症例ほか(1学年3名まで)

基幹施設である総合病院南生協病院と連携施設・特別連携施設での2年間の研修(専攻医2年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70 疾患群のうち、少なくとも通算で45 疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。1学年3名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成が達成可能です。

専攻医3年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院1施設および地域医療密着型病院1施設、計2施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

専攻医3年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも56疾患群、160症例以上の診療経験が達成可能です。

表 総合病院南生協病院診療科別診療実績

実 績	入院患者実数(人/年)	外来延患者数(延人/年)
消化器内科	1,154	24,963
循環器内科	576	20,910
糖尿病・内分泌内科	105	20,796
腎臓内科	407	20,714
呼吸器内科	750	32,256
神経内科	415	13,083
血液内科	139	8,060
救急科	1,378	23,056

※代謝、内分泌、血液、膠原病(リウマチ)領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1学年3名に対し十分な症例を経験可能です。

※膠原病の入院患者については、研修を保証できるよう連携施設との調整を計ります。

※4領域(消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科)の専門医が少なくとも1名以上在籍しています。

■地域住民とともに進める健康なまちづくりに参画できる医師

南医療生活協同組合ならではの組合員・地域住民が主体となって開催する健康チェックや各疾病の予防・治療に関わる学習会（班会）などにも参加し、多様な保健・医療活動を通じて地域住民の保健予防活動、健康づくりに積極的に貢献できる研修を行います。

■カンファレンスや学習会等を通じての多面的な学習

- ・ 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ・ 各種学習会・カンファレンス（例）
 - ① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科でのカンファレンス。
 - ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
※内科専攻医は年に2 回以上受講します。
 - ③ CPC（基幹施設 年度6回）
 - ④ 研修施設群合同カンファレンス
 - ⑤ 地域参加型のカンファレンス
 - ⑥ 基幹施設：地域連携懇談会、救急隊との症例検討会
JMECC受講 ※内科専攻医は必ず専門研修1 年もしくは2 年までに1 回受講します。
 - ⑦ 内科系学術集会
 - ⑧ 各種指導医講習会/JMECC指導者講習会

など

■専攻医の評価と方法

- ・ 「専攻医研修実績記録フォーマット」「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム『J-OSLER（ジェイオスラー）』を用います。
- ・ 3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します
- ・ 専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が総合病院南生協病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・ 年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに総合病院南生協病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

別表 1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計※5	70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※ 3
	症例数※5	200以上 （外来は最大 20）	160以上 （外来は最大 16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

総合病院南生協病院 後期研修医募集要項（2018 年度）

正式名称	南医療生活協同組合 総合病院 南生協病院 (313 床)			
所在地	〒-459-8540 名古屋市緑区南大高二丁目 204 番地			
TEL	052-625-0373	FAX	052-625-0534	
URL	http://www.minami-hp.jp/	E-mail	ikyoku-jimukyoku2@minami.or.jp	
医師数	52 名、うち初期研修 5 名・ 後期研修 4 名	職員数	常勤 350 名・非常勤等 200 名	
1 日患者数	外来 900 名／入院 298 名	救急対応	二次	
応募資格	2018 年 3 月臨床研修修了者（見込み）の医師			
募集人数	【内科】：（ 3 ）名（年度）			
研修制度 の概要	【内科】：3 年間の研修。1 年目・3 年目は基幹となる総合病院南生協病院での各科 ローテーションでの研修を行う。2 年目は、立場や役割の異なる連携施設（藤田保 健衛生大学病院、南医療生活協同組合かなめ病院）での研修を行い、3 年間を通し て内科専門医としての総合的な知識と技量を習得する。			
選考方法	専攻医登録システムにて公募。下記の応募書類の提出。 ・書類選考・面接実施 専門研修プログラム管理委員会で協議・採否を決定し、本人へ文書で通知			
応募書類	① 研修申込書（南生協病院内科 PG の志望動機を記載して下さい。A4 1 枚） ② 履歴書 ③医師免許証・保険医登録証（写）④臨床研修修了の証明書（見込書）			
処遇	身 分	常勤職員	休 日	公休日：112.5 日 夏休暇（3 日） 冬休暇（2 日） 有給休暇：1 年目 12 日～ 産休・育休・慶弔休暇等
	給 与	後期研修医（年収）：卒後 3 年目 612 万円 ～ 4 年目 682 万円 ～ 5 年目 750 万円 ～ 他に時間外手当・日当直手当（10～20 万/月）・扶養手当・住宅手当等		
		学会費、出張等援助あり。		
	福 利 厚 生	育児支援制度（産前産後休暇・育児休暇・育児時間・院内保育・病児保育） 社会保険加入（健康保険・厚生年金・労災保険・雇用保険等） 各種共済制度 （医療費、保育、文化・レジャー施設利用援助など）		
問合せ・ 申込先	総合病院 南生協病院 医局事務局：研修担当 TEL：052-625-0373/FAX：052-625-0534 E-mail：ikyoku-jimukyoku2@minami.or.jp			

問合せ

総合病院 南生協病院 医局事務局：研修担当
TEL：052-625-0373/FAX：052-625-0534
E-mail：ikyoku-jimukyoku2@minami.or.jp